

リユック・フェラーリ没後20年アコースモニウム・コンサート
空間を聴く・描く・編む

2025/2/10 19:00- 2/11 15:00-

パフォーミングギャラリー&カフェ 『絵空箱』

〒162-0801 東京都新宿区山吹町361 誠志堂ビル1階

各公演 ¥2,500



主催：佐藤 亜矢子

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 [東京芸術文化創造発信助成]、公益財団法人 野村財団

後援：先端芸術音楽創作学会、日本電子音楽協会

協力：Association Presque Rien (プレスク・リヤン協会)、Maison ONA、東海大学教養学部芸術学科 作曲・音楽制作ラボラトリー (檜垣智也研究室)

扉を開けて、マイクを抱え、街へ出た二人――。

リュック・フェラーリとブリュンヒルド・フェラーリの「point d'écoute (聴取点)」は、日常に潜む反復をあぶり出し、時間と場所とそこにある生命をユーモラスに照射する。

GRMで電子音楽の仕事を始め、ブリュンヒルドと結婚したリュック・フェラーリの音の旅は、70年代にヘルシュピール(ラジオドラマ)と出会うことでいよいよ深まる。しかしこのジャンルは作品時間の長さや再生環境のハードルなどから今までコンサートで上演されることは少なかった。

本公演では、リュック・フェラーリ没後20年を記念して、フェラーリのヘルシュピール作品を多次元立体音響装置(アコースモニウム)による特別な空間でじっくりとお届けする。音の細部まで自由に満ちた、あらずじのない物語へようこそ――。フェラーリ研究の第一人者であるゲスト、椎名亮輔氏、クリストフ・シャルル氏を迎えてのトークもお見逃しなく。

空間を聴く・描く・編む

リュック・フェラーリ没後20年アコースモニウム・コンサート

日時

2025年2月10日(月) 19:00～ / 2月11日(火・祝) 15:00～

会場

パフォーミングギャラリー&カフェ『絵空箱』
(〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361 誠志堂ビル 1階)

会場はコンサートホールとは異なるスペースです。外部からの日常音も入る可能性があります、悪しからずご了承くださいませようお願い申し上げます。

交通アクセス

東京メトロ 有楽町線「江戸川橋」駅 徒歩2分、東西線「神楽坂」駅 徒歩9分

アコースモニウム演奏

檜垣 智也 (兼プレトーク登壇)
渡辺 愛
佐藤 亜矢子

チケット (Peatixにて取扱)

<https://acousmoniumtokyo2025ferrari.peatix.com/>



プログラム

2/10(月) 18:30 開場 19:00 開演	リュック・フェラーリ《盲人の階段》 ブリュンヒルド・フェラーリ《Derivatif》 檜垣智也作品 アフタートーク(ゲスト: 椎名 亮輔、クリストフ・シャルル)	各公演 2,500円
2/11(火・祝) 14:30 開場 15:00 開演	リュック・フェラーリ《逸話的なものたち》 ブリュンヒルド・フェラーリ《Extérieur - Jour》 渡辺愛作品 佐藤亜矢子作品 アフタートーク(檜垣智也、渡辺愛、佐藤亜矢子)	

各種SNS

X @acousmoniumtoky Instagram @acousmonium.tokyo

問い合わせ

acousmonium.tokyo@gmail.com



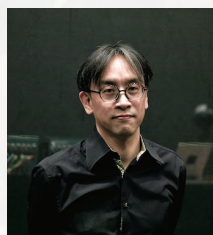
Photo: Olivier Garros

リュック・フェラーリ

1929年パリ生まれの作曲家。コルトー、オネゲル、メシアンに師事し、器楽曲で頭角を顕す。フランス国立放送においてピエール・シェフェールらとGRMの創設に加わり、ミュージック・コンクレート作品や映画を制作。日常音や社会の音を録音しミックスした“逸話的音楽”を創出し、実験音楽/電子音楽分野をはじめとする多くの分野に強い影響を与える。1982年、“La Muse en Circuit”(「回路の詩神」協会)を設立したが後に離れ、1996年、“アトリエ・ポスト=ビリッピ”を設立。インスタレーション、ラジオドラマ(ヘルシュピール)、文学、即興音楽に至るまでジャンルを自由に横断し、独自の音響的物語を紡いだ。2005年、イタリアで客死。エレガントで遊び心溢れる彼の作品は、没後20年経ったこんにちでも多くのアーティストを刺激し続けている。

ブリュンヒルド・フェラーリ

ドイツ出身。リュック・フェラーリのパートナーであり、作曲家。シェフェールらとGRMおよびGRIで働き、一時期は翻訳家としても活動。器楽曲を除く多数のフェラーリ作品に協働作業・出演者として関わる。“La Muse en Circuit”の共同設立者の一人。2006年、全フェラーリ作品の上演支援やアーカイブの管理を行う「プレスク・リヤン協会」を創立。特に、膨大な録音アーカイブの一部を解放し、次世代の芸術作品へと繋げるユニークなコンクール「プレスク・リヤン賞」を十年に亘り主宰し、受賞作品集をリリースするなど、その継承と発展に尽力してきた。近年ではレコードやラジオ出演に加えて著作の出版、彼女を題材としてドキュメンタリーも制作されており、活躍の場を広げている。



©Ryuei YOKOKAWA

檜垣 智也

作曲家、アコースモニウム演奏家。博士(芸術工学、九州大学)。アコースティック表現の可能性を追求し、世界中のアコースモニウムを演奏。リサイタル活動は高く評価され、大阪文化祭奨励賞(2022)など受賞、入選多数。東海大学准教授、大阪芸術大学大学院客員教授。



渡辺 愛

作曲・アコースモニウム演奏・即興活動を行う。パリ国立地方音楽院を経て東京芸術大学修了。「リュック・フェラーリの電子音響作品における逸話の構造」で博士号取得。現在、昭和音楽大学、東京芸術大学、武蔵野美術大学、玉川大学非常勤講師。日本電子音楽協会理事。美学校講師。



佐藤 亜矢子

作曲家、アーティスト。主に電子音響音楽の領域にて、国内外で活動。旅先や日常で出会う雑音・生活の音・物音などの録音物を素材とし、環境や場所の記憶を辿りつつ書き上げるような作品を作る。東京芸術大学大学院音楽研究科修了。リュック・フェラーリの作品研究で博士(学術)。